

- 1 審議会名 第1回上田市国民健康保険運営協議会
- 2 日 時 令和6年10月17日(木) 午後1時30分から午後3時00分まで
- 3 会 場 上田市役所2階202・203会議室
- 4 出席者 小林芳夫会長、新田さやか副会長、降旗次男委員、原有紀委員、飯島久子委員、
斉藤拓康委員、岸秀幸委員、合葉雅彦委員、片山宏規委員、
内川佳子委員、遠藤のり子委員、西澤初江委員、横澤幸江委員、清住洋子委員
- 5 市側出席者 室賀健康こども未来部長、櫻井健康推進課長、柳澤収納管理課長、坂口国保年金課長、
小林保健予防担当係長、小澤国保年金課課長補佐、川俣国民健康保険担当係長、
佐口保健事業係長、笠井国民健康保険担当主任、栗原国民健康保険担当主事
- 6 公開・非公開等の別 公開 ・ ~~一部公開~~ ・ ~~非公開~~
- 7 傍聴者 0名 記者 0名
- 8 会議録作成年月日 令和6年10月24日

協 議 事 項 等

- 1 開会(事務局)
- 2 あいさつ(室賀健康こども未来部長)
- 3 委員の紹介(各自自己紹介)
- 4 正副会長の選出
・会長に小林芳夫委員、副会長に新田さやか委員を選出
- 5 会議録署名人の指名
・小林会長から、内川委員と清住委員の2名を会議録署名人に指名
- 6 議事
 - (1) 上田市国民健康保険事業の概要及び財政状況についての説明 (事務局：資料により説明)
 - (2) 国民健康保険税についての説明 (事務局：資料により説明)
 - (3) 上田市国民健康保険 保健事業実施計画(データヘルス計画)についての説明 (事務局：資料により説明)

質疑等

委 員：保険給付費が高い傾向であるとはどういう意味か。

事務局：令和5年度において、上田市の国保財政の歳出分152億8,000万のうち、保険給付費は111億9000万となっております。全体の支出の73.2%を占めており、支出割合が大変大きい傾向が続いております。

委 員：受診回数の増加が財政を逼迫させる要因である、とはどういうことか。

事務局：一人当たりの受診回数が増加すると、保険者が負担する費用額が増加するということにつながります。被保険者の受診回数が1回増えると、費用額が推計で11億円増えるという結果が出ており、国保財政を逼迫する要因となると考えられます。

委 員：医療費が逼迫しているという表現は、だれがいつ病気になり、受診するかはわからない中で、それを一定の枠に抑え込もうという風にとらえられるがどうか。

事務局：国保の実情として、平成20年に比べ国保加入者は減少しておりますが、医療の高度化などもあり、医療費の額は増加しております。医療にかかるのは当然の権利であります、少しでも医療費の適正化を努めていきたいと考えております。

委員：上田市の一人当たり医療費が県内19市中で一番高いが、どういう要因があるのか。

事務局：上田市の医療費が高いことについては大きな課題であります。この原因については、何か一つの要因ということではなく、複合的な理由であると考えております。上田市では糖尿病や脳梗塞の割合が高いというデータもありますが、分析が難しい状況にあります。現在、保健事業係において特定健診受診率向上やデータの分析に力を入れており、被保険者の方に少しでも健康に意識を向けていただき、医療費の適正化に努めていきたいと考えております。

委員：令和4年度に国保税率を大幅に下げたのはなぜか。

事務局：当時、基金残高が15億8000万と多くあったことと、コロナウイルス感染症が流行していたため被保険者の負担軽減のため税額の引き下げを行ったものでございます。ただ、その後被保険者が減少し、医療費は増加するといった状況になりましたので、令和6年度は保険税の引き上げをいたしました。

委員：一般論として一度下げたものを、再度上げるというのは難しいと思うがどうか。

事務局：おっしゃるとおりです。ですが、国保財政の維持が最優先ということで、審議会で議論を行い、改定を行いました。国保制度はその時々々の世情に合わせて考えていかなければならないものですので、今後もこの審議会で諮っていきたいと思っております。

7 その他

(1) マイナ保険証への移行について（事務局：資料により説明）

(2) 今後の日程についての説明（事務局：資料により説明）

8 閉会（事務局）